

## 編集後記

平成23年4月、看護学部が産声を上げた。学術誌編集委員が決まり、実際に仕事を始めたのが連休を過ぎた頃であった。上野範子、田中祐子、井上美代江の3先生と私の4名であった。学部長の筒井裕子先生からは、この雑誌は単なる紀要ではなく、外部の査読をいただく学術雑誌にするようにとの指示があり、その方針で9月末日を原稿の締め切り日として、予定を立てた。最初に取り組んだ仕事は比較的時間がかかる表紙の作成であった。幸いにも田中先生の友人にデザイナーの方がおられるとお聞きし、後藤黄太氏にお願いすることとなった。来校をお願いし、大学、学部の雰囲気を読み取っていただき、私たちの思いも伝えた。5ヶ月後の11月16日、5種類の見本を持って後藤氏がおいでになった。説明をお聞きしながら、上品な橙色を基調とした色遣いと、すっきりしたデザインの表紙を第1候補にして、3種類を学部資料作成室に展示し、学科会議で第1候補の表紙を決めていただいた。原稿が出揃うにはかなりの時間が必要であったが12月の半ば、投稿原稿を外部の先生方に査読をお願いすることになった。大変お忙しいところを快く、また丁寧に見ていただき、本当にありがたく、先生方には心よりお礼を申し上げます。

年が明けて、学部長の筒井裕子先生に巻頭言をお願いした。ご多忙のところを素晴らしい巻頭言をお寄せいただき第1巻の刊行への大きな励ましとなった。

論文を投稿された当学部の先生方にお礼を申し上げたい。新任間もない忙しい時期に様々なテーマで力作をお寄せいただき、第1巻を完成することができたのは編集委員一同本当にうれしく、また頼もしく感じました。感謝とともに今後の投稿もお願いする次第です。完成が5月にずれ込み、4月からは4名（倉田真由美、桶河華代、川嶋元子、堀内美由紀）の新しい編集委員にも加わっていただき総勢8名で編集を進めることになった。第2巻は今年度末の完成を目指しますので皆さまのご投稿を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、美しく印刷・製本をしていただいた（有）東呉竹堂（ひがし印刷）ならびに中西孝志氏にお礼を申し上げます。

委員長 石田英實